

平成23年度第3回平塚市地域包括支援センター運営協議会会議録

平成24年2月22日（水）

13時30分～15時30分

平塚市博物館 1階 講堂

出席者（出席委員）

寺山委員 松浦委員 内田委員 二瓶委員 上野委員 増井委員 湯川委員 越光委員
弘中委員 船水委員

（10人出席 今井委員、國安委員、小宮委員 欠席）

（事務局）

椎野福祉部長 田中高齢福祉課長 鎌田課長代理 中村課長代理 松井主管 齊藤主査
萩原主事

開会

福祉部長あいさつ

<進行は弘中会長>

議事に入る前の報告事項

過半数の委員が出席しており平塚市地域包括支援センター運営協議会運営要綱第6条第2項により会議は成立。また、会議の傍聴者はいません。

議事①ひらつかほほえみ福寿プラン（案）について

事務局より説明 資料1に基づき、事務局から説明

<委員> 全体の内容が分かる、大変良い計画であると思います。

<委員> 中をじっくり読ませていただき、私達も年を取っていくととてもありがたいなと思いました。今後高齢化が進む中でどこまでできるのか、地域によっては温度差がある。私もリハビリの様な所へ通っていて、先生が丁寧にひとりひとり対応している。高齢者が増えることによりどうなのかな。また、災害に会うことも考えられ、平塚市では災害にあった高齢者の搬送先として栗原ホームがあるが、ある意味栗原ホームしかない。その中で医療体制など大切になってくる。今後ともよろしく願いいたします。

<委員> 感想の様なものになりますが、これだけ詳細な人数の把握が出来ているということを見て驚きました。居宅サービスを利用される人がどんどん増えているのは分かっていたのですが、これほど施設よりも増えてきていることを初めて知った。居宅サービスが0.1ポイント増加して施設が余り多くない。私は施設で働いているが施設での待機者がまだまだいると感じていたのが意外でした。訪問リハとかに皆さんが関心を持っている。自分の自己管理に前向きになっていることが分かった。あとは権利擁護で、年々私の働いてい

る施設では、成年後見の人が増えてきているようです。その対応が少し遅れているのかなと思う。わがままな人がこれから増えてくると思うので充実していただければと思います。

<委員> 協議会の委員の役目として意見を言わなければならないが、実際の現場を知らないで意見を言うことは中々難しいことである。実際の包括支援センターを見させていただいて、実感を持って自治会を通して見ていきたいと思っている。

<委員> パブコメにもある様に、地域包括ケアシステム、他市のモデルもありますが、地域包括支援システムとは、何がどれだけできるのかを、皆さんそれぞれ同じものではないことを考えていると思うが、それを具体的に話し合っに行かないと、言葉だけが先歩きしてしまって、何も変わっていない現状になる。知っている事例で、介護が大変であるという方が母親を老人ホームに入居させたが、何年か経って食事が取れなくなる。経過としては、もう老衰で仕方がないのかも知れないのですが、施設では面倒を見れなくなったので、退所となった。御家族は最後が大変なので診ていただきたくて施設に預けた訳なのですが、戻ってきてしまった。最終的には家族に介護され看取られた。まだ、市民が望むようなケアの体制が整っていないのかなと思う。地域包括ケアシステムと考えた時には、高齢の方が安心して最後まで、どんなことがこの地域で出来るか、システム自体を施設も在宅も行政も民間も考えていかなければいけないと思う。

<委員> 入所中の患者さんは、御家族が看ているうちにだんだん歯がなくなってしまった、虫歯でボロボロの状態であった、高齢者は虫歯の進みが遅いので急にボロボロになることはないが、今は家族が施設に歯磨きに行っ、歯科医院に通院している。この様な人もいるのでシステムとして、個人ではなくシステムづくりを施設と在宅などうまくネットの様なものを作って横に入り斜めに入りして、少しずつ支える物を作ることがいいのかなと思っています。今回の計画は良く出来ていると思う。だが言葉が上滑りしないように、言葉を作って、仕組みを作って、資金を考えて、人材を考えて、最終的には地域が動くものだと思いますので、組織としてお手伝いをしていきますので推進宜しくお願い致します。

<委員> 私の組織では、高齢者の方に何かあったら包括支援センターに相談するようにお話をしています。今日も訪問して包括支援センターにつなげた事例もある。大変心強いと思っている、民生委員もそうですが住民の方はどこに相談していいのかわからない方が多いのでPRしている。相談先が分からず、だいたい大変なことになってから連絡がある場合もある。高齢者よろず相談センターが動いてくれるのは心強いと思っている。「医療との連携」で前回の会議の報告を民生委員の会議で話した。これはほんとにやっていただきたいと思っている。

<委員> 独居老人で80歳過ぎても1人で生活している方などに対して民生委員や高齢者よろず相談センターなどからも相談があります。そういう人には福祉電話などが無いと困るだろうと個々にあたっています。元気で歩けるうちはいいのですが、電話がないと不安になります。高齢者プランの中で進むようにしていただければと思っています。

<委員> 様々な仕組の周知の問題はどこも抱えていられます。行政にはプライバシーの

問題などがあり難しいと思います。色々なサービスの周知はどこでも課題になっている。

<会長> 皆様色々な意見をありがとうございました。

議事② 平成 24 年度平塚市地域包括支援センターの方針について

事務局より 資料 2 に基づいて説明

<委員> 地域包括支援センターで地域ケア会議を開催している所としていない所がある、地域により色々な形があると思うが、地域ケア会議にはどのような内容や検討事項を入れてほしい又は必要であるといった事を提示する。ある意味横並びで同じことを各包括で行っていただいてケア会議の成果を求めたい。包括支援センター職員のスキルアップは皆で考えて地域包括の方々に伝えていただきたい。次にサービスの周知の一つとして年に 1 回でも良いので地域包括支援センターの活動を公開の場として、皆さんに分かるように経過報告をしていただけると具体的なことが分かるので是非企画してほしい。

<委員> 地域ケア会議の定義とはどうなのか

<事務局> 色々な形がありますが、地域の中で開催される会議に参加して包括支援センターの事業の内容を説明するものやセンターが主体となって行う会議もあります。地域に温度差があるというのは、地域でうまくできる所はセンターが主体となり呼びかけをして会議を行う、これが一番良いですが、まだ出来ていない所は地域の会議に呼んでもらって会議に参加する。目的は、まず地域包括支援センターの仕事を理解してもらい、周知するといったことで、地域の皆様に分かってもらう事が第一です。各地域包括支援センターには、幾つかの地域があり理解が進んでいる地区、進んでいない地区があり、将来的には地域包括支援センターが呼びかけをして会議が出来れば良い事であると考えています。

交流会や講演会、学習会などを通して地域の方と高齢者が安心して暮らせる事を話せる事が出来ればと考えます。

議事③ 平塚市地域包括支援センター事業報告について

事務局より 資料 3 に基づいて説明

<委員> 包括支援センターでその他の内容にはどのようなものがあるのか。

<事務局> 高齢者よろず相談センターという事で呼称を付けて周知している。高齢者の生活的な相談ではない内容が増えてきている、家族の相談や相談内容が不明なものもある。また、認知症サポーター養成講座の問い合わせや申し込みはその他になります。

議事④ 平塚市指定介護予防支援事業所（地域包括支援センター）の指定更新について

事務局より 資料 4 に基づいて説明

<委員> 指導とは運営に関してのことなのか。

<事務局> 介護保険法で規定されている内容になり、介護予防プランに対しての指導で包括全ての業務ではない。

<委員> 包括の活動状況や進め方に関する部分はこの実施指導には含まれていないのですか。

<事務局> 含まれていません。

議事⑤ 平成 24・25 年度平塚市地域包括支援センター運営協議会委員の推薦等について
事務局より 資料⑤に基づいて説明（委員の公募関係含む）

<委員> 包括支援センターの 9 月 10 月 11 月のデータは、市の方から住民実態調査の依頼があった、私達民生委員が調査した。包括支援センター民生委員の連携が良くなった。今回有償運送などが分かった。対象者に喜ばれた。

<会長> 本日の議事はすべて終了いたします。最後に閉会のあいさつを副会長からいただきたいと存じます。

閉会

<副会長>

この会議でも分かりますが、地域包括支援センターの役割というのは、益々多くなると思います。地域包括だけでは出来ませんし、行政がうまく機能しても中々うまくいかない、市民の意識が最大の課題ではないか、後期高齢者まで想定した計画であるならば、それを成功するために市を上げて取り組まなければならないと思います。ネットワークも重要ですが私は地域包括ケア会議に出席して、平塚市の組織がどんな活動をしているのか、介護保険課・高齢福祉課・福祉総務課のそれぞれの課が事業を実施していますが、うまくネットワークしていかないと中々難しいと考えています。今後に向けて住みやすい平塚にしていきたい。

<会長> 平成 23 年度第 3 回目の運営協議会に係る事項はすべて終了しましたので、進行を事務局にお返し致します。

<事務局> 各委員の皆様には、22 年度・23 年度貴重な御意見をいただきましてありがとうございました。

以 上